

---

[成果情報名] 世界で初めて育成した九倍体甘ガキ品種「秋王」

[要約] 「秋王」は、発芽期や開花期は「富有」と同時期で、収穫期は「太秋」と同時期である。大果・高糖度で食味が優れ、種子は極めて少なく食べやすく、日持ち性は比較的良好である。

[キーワード] カキ、九倍体、甘ガキ、秋王、大果、良食味

[担当部署] 果樹部 果樹育種チーム

[連絡先] 092-922-4946

[対象作物] 果樹

[専門項目] 育種

[成果分類] 新技術

---

[背景・ねらい]

カキの消費は減少傾向にあり、販売単価の低迷も著しく、生産者の経営は厳しい状況にある。近年、消費者は‘種なし’などの食べやすさを重視することから、これまでにない種子が入りにくい甘ガキを開発することにより、消費拡大と産地の活性化が期待できる。そこで、大果で食味が優れる種なし甘ガキ品種を育成する。（要望機関名：生産流通課（H19）、久留米普（H21 照会））

[成果の内容・特徴]

「秋王」は、平成 13 年に「富有」と「太秋」を交雑して得られた不完全種子を胚培養することで得られた、世界初の九倍体甘ガキ品種である（図 1）。大果で果実品質が優れることから職務育成品種に認定され、平成 22 年 11 月に品種登録出願し、平成 23 年 1 月に出願公表された。

1. 「秋王」の樹姿は開張性であり、「太秋」よりも主枝が開くが、粗皮はやや粗い（図 2、表 1）。
2. 「秋王」の発芽期は 3 月 17 日、開花盛期は 5 月 22 日で、「富有」と同程度である。花蕾数は「太秋」よりも多く、雄花の着生は極わずかである。早期落果は 6 月上中旬頃から始まり、「富有」や「太秋」よりも多い（表 1、一部データ略）。
3. 「秋王」の収穫期は 10 月中旬～11 月上旬、収穫盛期は 10 月下旬で、「富有」よりも早く、「太秋」とほぼ同時期である（表 2）。
4. 果重は 350 g 程度で、果形は「太秋」よりも扁平である。果実糖度は約 20 度で、「太秋」に似たサクサクした食感で食味が優れ、種子は極めて少なく食べやすい。果皮色は「富有」より劣るが、「太秋」より優れる。軽微なへたすきや果頂裂果がみられるものもある。日持ち性は「太秋」と同等である。炭そ病に対する耐病性は「富有」や「太秋」と同程度である（表 2、一部データ略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 栽培面積の 8 割を占める「富有」、「松本早生富有」や生産性の低い「西村早生」などに替わる福岡県オリジナルの基幹品種として推進する。
2. 結実安定のため、棚の導入が望ましい。
3. 樹皮がやや粗いため、粗皮剥ぎとともに枝幹害虫の防除を徹底する。

[具体的データ]



図1 「秋王」の果実外観



図2 「秋王」の樹姿（3年生）

表1 「秋王」の生育特性（平成20～22年）

品種	発芽期	開花盛期	樹勢	樹姿	樹皮	雌雄性	早期落果
秋王	3/17	5/22	やや強	開張	やや粗	雌花および雄花	中
太秋	3/16	5/19	中	直立	中間	雌花および雄花	少
富有	3/17	5/21	強	開張	中間	雌花のみ	少

表2 「秋王」の果実品質特性（平成20～22年）

品種	収穫盛期	果重 (g)	果皮色(カラーチャート)			硬度 (kg)	糖度 (Brix)	種子数 (個/果)	条紋
			果頂部	赤道部	果底部				
秋王	10/21	365	5.3	5.3	5.1	1.3	19.6	極少	0.0
太秋	10/25	394	5.0	4.3	4.0	1.2	16.1	2.1	0.5
富有	11/20	287	6.2	5.5	5.6	2.0	16.4	4.7	0.0

注) 1. 果皮色はカラーチャート数値で、値が大きいほど色が濃いことを示す。

2. 条紋は、0(無)、1(少)、2(中)、3(多)の4段階評価で、平均値で表示。

[その他]

研究課題名: 種なし完全甘ガキ品種の育成

予算区分: 経常、県特（スーパー農産物）

研究期間: 平成22年度（県特：平成13～18年、経常：平成19～23年）

研究担当者: 千々和浩幸、平川信之、林 公彦、矢羽田二郎、白石美樹夫

石坂 晃、藤島宏之、村本晃司

発表論文等: 園芸学会雑誌 77 巻 4 号